

2022年度(評価対象期間: 2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)心理学部では人材の養成・教育研究上の目的を次のように設定している。「心理学部は、個人または集団の行動特性と取り巻く環境要因を客観的に評価し、直面する問題への解決策を導くことができる人材、心理学の新しい活用法を立案、展開できる人材を養成します。具体的には、心理学科が継続的に教育活動を実践してきた、認知・行動、発達・教育、人格・臨床、社会・産業、統計分野における心理学の基礎的知見を活用し、帰属するコミュニティーの問題解決に能動的に取り組む人材を養成します。また、高いコミュニケーション能力とストレスマネジメント能力を備え、建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に基づき、その実力を職業・地域生活・家庭運営等に活用・応用できる人材を輩出します。そのための教育研究上の目的として、(1)人の心理的問題を解明または解決するための、科学的アプローチを修得すること。(2)医療、産業、地域コミュニティーなど様々な状況において活用できる基礎的、専門的知識と技能を修得すること。(3)多様な場面における新規の諸問題に対して、多角的かつ科学的に分析し、解決へ導くための応用的技能を修得すること。の3項目をあげ教育の基本理念としています」(1-1)。				
(2)大学の建学精神は、「行学一体・報恩感謝」である。すなわち、「仏教精神特に禅的教養を基とし、行学一体の人格育成に努め、報恩感謝の生活ができる社会人を養成する」のが、愛知学院の教育の理念である。心理学部はこころの育成に重点をおき、豊かなこころがもてるように教育を行うとともに、こころに悩みをもっている人への援助を専門とする心理職の育成を目指している。また、常に自ら、そして他者のこころに関心をもちながら社会生活を送ることができる人を育てることを目指している。これは大学の建学精神、教育理念に合致するものである(1-2)。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
1-1心理	大学のHP。「大学紹介」→「教育理念・各種方針」ウェブサイト【 http://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf 】			
1-2心理	心理学部のHP。ウェブサイト【 https://psychology.agu.ac.jp/ 】			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 心理学部の人材の養成・教育研究上の目的は、大学のHP(1-1)に明示している。大学・学部・学科の理念・目的は、大学の基本理念に貫徹されることが必要である。例年、入学時のオリエンテーションで、全教員から本学部の教育理念や教育目標が説明され、さらに学部2年以上の学年では、ガイダンスやオリエンテーションを通じて各教員から履修要項を元にして担当科目や講義・演習の方針を説明している。				
(2) 学部の理念・目的は、大学のHP(1-1)及び「履修要項」(1-3)に掲載し、教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表している。また、学部のHP(1-2)、「大学案内2023」(1-4)でも受験生や一般の方が理解しやすいよう記載している。				

基準1. 理念・目的

組織名

心理学部

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

1-1心理	大学のHP。「大学紹介」→「教育理念・各種方針」ウェブサイト【 http://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf 】
1-2心理	心理学部のHP。ウェブサイト【 https://psychology.agu.ac.jp/ 】
1-3心理	心理学部履修要項(人材の養成・教育研究上の目的)
1-4心理	大学案内2023(心理学部心理学科)

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
②(1)	昨今、学力面でもその他の面でも、入学してくる学生の多様性が高まっていることから、よりきめ細かな指導が必要となる。同じことを伝えるのに、相手が違えば異なった方法が必要になる場合もある。そういった意味では教員にはある種の意識改革が求められる。欠席がちな学生へのアプローチも課題である。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
②(1)	心理学科では、ガイダンスやオリエンテーションに出席していなかった学生については、実験助手が把握し、授業参加時に声掛けしたり、メールやチャットを用いて連絡することで、齟齬が起きないように工夫をこらしている。実験助手室は心理学科学生にとってまさに「ワンストップ」であり、何か困ったことがあった場合に訪れれば何らかの対策が講じられる場所であり、かけがえのない存在となっている。実験助手を含めすべての構成員は、学生とのコミュニケーションや人間関係を通して理念・目的を共有していくことの重要性を認識している。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準1」全体の自己評価

自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	A
--	---

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(4)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。 ※各学部・研究科の自己点検・自己評価委員会等の年2回以上の開催及び委員会での取り組み内容について具体的に記載してください。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (4) 毎週水曜日に開催される学科会議において、学科の教育研究上の問題点を議題として取り上げ、教員間で検討をし、決定事項に関しては学科議事録に記載し、改善に取り組んでいる。また、学科会議での検討内容等を心理学部自己点検・自己評価委員会に集約し、内部質保証体制を構築している(2-1, 2-2)。 上記の議事録で示したように、例えば卒業論文の質を保証するために、質問紙調査の実施方法などについて学科会議で定期的に審議し、改善・向上に向けた取り組みを行っている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
2-1心理	学科会議議事録			
2-2心理	2022年度心理学部自己点検・自己評価委員会議事録			

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準2」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1)心理学部では、以下のような卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を大学のホームページ(4-1)および履修要項(4-2)で公表している。「愛知学院大学心理学部は、下記のような人材の育成を目指しています。①本学建学の精神である「行学一体」、「報恩感謝」を深く理解し、高い倫理観と豊かな人間性をもつ人。②心理学の専門知識を背景に、人間および人間が営む生活に対する多角的視点を形成し、科学的視点から主体性をもって課題を発見・解決する思考力を有している人。③心理学・心理的支援に関する知識や技術を有し、それを自分および家族・友人等の心理的安定や活性化など実生活に活用できる人。④心理学・心理的支援に関する知識や技術を、対人支援業務をはじめ、多様な産業における業務に活用・応用し、協働的・協調的に活動できる人。したがって、下記の条件を満たす者に学士(心理学)を授与する方針です。(1)「行学一体」、「報恩感謝」を深く理解し、高い倫理観と豊かな人間性をもって、主体的に社会に貢献することができる。(2)科学的見地から心理学を理解し、専門的で広範な知識や技能を修得している。(3)多様な集団において円滑なコミュニケーションを形成しつつ、自身および他者へのストレスマネジメントを施す技能や知識を身につけている。(4)医療、教育、対人支援、ものづくり、地域社会など多様な産業分野において、心理学を基軸とした専門的な知識や技能を用いて主体的に課題の発見と解決できる。」				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-1心理	大学のHP 教育理念・各種方針 ウェブサイト【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2022_01.pdf 】			
4-2心理	心理学部履修要項(ディプロマ・ポリシー)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与の方針には適切な連関性がありますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)心理学部では、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を以下のように設定し、大学のHP及び履修要項で公表している(4-3,4-4)。さらに、心理学部のホームページの中の「カリキュラム」の項(4-5)で、4年間で深める学びのステップを年次ごとに明示し、年次別カリキュラム表も見られるようにしている。 「愛知学院大学心理学部では、卒業認定と学位授与の方針(DP)に掲げた目標達成のために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。 【教育内容】①「認知」「発達・教育」「人格・臨床」「社会・産業」「統計」の心理学ほぼ全領域にわたって、人間とは何かについて深く探求する基礎的な科目から現実問題に対処する応用的な科目まで幅広く配置し、段階的、系統的な教育を実践します。②1年次においては教養科目にて幅広い教養を身につけると同時に、心理学と他の隣接諸科学とを関連づけて考える力を培い、心理学が人間の生活全般に密接にかかわることを理解します。③心理学の専門知識と技能を修得し、自身および他者へのストレスマネジメントの能力を養います。④心理実験や専門的な演習科目を通じて、様々な心理的事象を測定、観察、分析し、結果をまとめるための力を養います。そして課題発見や課題解決のプロセスにおける議論を介して、高いコミュニケーションスキルを身につけます。⑤3年次以降において、心理学実践分野、多文化・共生分野、情報ビジネス分野のいずれか一つの分野を主選択分野として重点的に学修し、心理学を基軸に社会貢献するための応用的知識と技能を高めます。⑥修得した専門知識を転換することによって問題解決のためのイノベーションを創造するなど、積極的に社会貢献する人間性を涵養します。 【教育方法】①実験演習や調査演習により、適切なデータ収集や分析の方法を繰り返し体験します。データに含まれる規則性や法則性を導くための議論を反復することによって、こころの働きに対する洞察力を高めます。②学生が協働しながら学ぶグループワークを積極的に取り入れることで、現実の問題について多角的に見立てて分析する視点を養います。またその過程を通じて芽生える学生同士の連帯感や相互扶助の精神により、対人支援に携わる者としての基本的な心構えを育みます。③プレゼンテーション、ディスカッション、研究レポート作成を介して、他者との積極的なコミュニケーションを実践し、自ら学ぶための主体性を高めていきます。④専門展開科目で自らが選択した分野において実践的な技能を修得し、進路選択における学生個人の方針を明確にします。⑤総合研究演習におけるディスカッションを基盤にして、先行研究からこころに関わる様々な諸問題を研究テーマとして導き出すことを通じて、学生自身が問題解決のための卒業研究を遂行します。 【教育評価】①各科目の性質に応じて、様々な学習成果の評価方法を適用します。学期末に行う試験やレポート課題だけでなく、授業内での小テスト等で理解度や達成度を多面的に評価します。②アクティブラーニング型の授業では、授業内でのプレゼンテーションおよびそれに向けた取り組みの姿勢などを評価対象とします。③1年間の振り返りとして、定量的・定性的な評価シートを用い、学生自ら現状評価を行います。これらの結果は、今後の学習の方向性を確認、検討するために役立ちます。」				
(2)両者には適切な連関性がある。例えば、ディプロマ・ポリシーの「人間および人間が営む生活に対する多角的視点を形成し、科学的視点から主体性をもって課題を発見・解決する思考力」については、カリキュラム・ポリシーにおいて「認知・行動、発達・教育、人格・臨床、社会・産業、統計の心理学ほぼ全領域にわたって、人間とは何かについて深く探求する基礎的な科目から現実問題に対処する応用的な科目まで幅広く配置し、段階的、系統的な教育を実施」と定めており、連関性を持たせている。また、ディプロマ・ポリシーの「対人支援業務をはじめ、多様な産業における業務に活用・応用し、協働的・協調的に活動できる人」については、カリキュラム・ポリシーにおいて「積極的に社会貢献する人間を涵養」と定めており、心理職を養成する公認心理師コースを用意するのみならず、大学卒業後、一般企業等に就職して就職先で心理学を生かそうとする学生にも手厚いカリキュラムとなっている(4-5)。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-3心理	大学のHP。ウェブサイト【 http://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2022_01.pdf 】			
4-4心理	心理学部履修要項(カリキュラム・ポリシー)			
4-5心理	心理学部のHP。ウェブサイト【 https://psychology.agu.ac.jp/curriculum/index.html 】			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 ＜学士課程＞ 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞ コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(6)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 教育課程の編成・実施方針に沿い、教育課程を編成している(4-5、4-6)。例えば「基礎と応用」に関して、1年次には「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」「認知心理学Ⅰ(知覚・認知心理学)」で心理学に関する基礎的な知識を取得してもらい、2年次では発達心理学や人格心理学など心理学の各分野に分かれ、基礎科目が設けられている。それを踏まえた上で、3年次には「カレントトピックス」、各分野の知識を応用する科目が設けられている。また、講義形式の授業と実際学生がさまざまな実験や心理療法のスキルなどを体験習得する演習形式の授業を両方設けている。さらに、公認心理師コースでは学生が医療・福祉・産業・司法の各実習先に複数回赴き、現場において心理職がどのように働いているのかを見学する。実習先によっては単なる見学にとどまらず、利用者とのかわりをもてる機会も設定され、インターンシップ的な要素を多分に含んでいる。				
(2) 心理学部では心理学を初めて学ぶ学生に対して専門教育科目である「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」、「認知心理学Ⅰ(知覚・認知心理学)」を1年次から受講させることにより心理学全般、また心理学的なものの見方の基礎に興味・関心を持たせるようにしている。さらにそれらの学習により得られる幅広い領域の心理学的データに対する分析方法の基礎を1年次の「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」で学び、3年次の「心理学研究法」では、それまでに学んだ各領域の基礎知識を踏まえて複数の領域の教員による幅広い心理学の領域における研究方法について学ぶなど、段階的に心理学の知識を積み、応用していく方法論について学べるよう配置している。また、専門一般科目を2年次から4年次までの間に自由に選択させ履修できるようにしている。さらに、2年次での心理学実験を手始めに基礎的な実験演習から高度な実験演習へと学年が進むにつれてより専門的な知識を無理なく学べるように、独自のカリキュラムを編成している。ちなみに、専門課程でのカリキュラムの内容は、専門基礎科目は必修として20単位、専門基幹科目・専門展開科目は演習4単位を含めて44単位以上、専門総合科目は12単位、卒業研究は6単位で、専門教育科目の中から76単位以上修得することを心理学科の卒業要件としている(4-7)。				
(3) 個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえ、構成している(4-8)。また、その内容が適切であるかについては第三者によるシラバスチェックによって確認を行っている(4-9)。				
(4) 初年次教育では、「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」、「認知心理学Ⅰ(知覚・認知心理学)」を受講させている。「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」は4領域の教員が担当し、大学生になることで初めて学ぶことになる心理学について、幅広く、基本的な内容を教育している。「認知心理学Ⅰ(知覚・認知心理学)」は心理学のなかでも基礎心理学に属する分野であるが、科学的な心理学のものの見方、研究の方法などを教育している。いずれも学生が大学に来て初めて学ぶ内容であり、心理学の幅広い入門的知識に興味や関心をもたせるようにしている。 高大接続への配慮では、例えば、「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」では高校で学んだ平均値や標準偏差の概念を復習しつつ、大学で学ぶために必要な統計の基礎知識を教えるようにしている(4-6、4-7)。 教養教育と専門教育の適切な配置では、本学には教養部があり、1、2年次ではきちんと教養科目を取得してもらい、2年次以降に徐々に専門科目を増やす配置になっている(4-6)。 (6) 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育として、アクティブラーニングを積極的に導入している。具体的には、演習形式で講義を行い、学生が能動的に心理学の実験やテスト、心理職として必要な技能を学べるようにしている。また、少人数での授業を多く開講することで、社会で求められるコミュニケーション力を高めることができるよう配慮している。さらに、公認心理師コースでは福祉施設等でのボランティア活動参加を必須としており、将来、心理支援活動に携わる者としての自覚を身に着けるなど、職業的な自立を促すことを重視している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-5心理	心理学部のHP。ウェブサイト【 https://psychology.agu.ac.jp/curriculum/index.html 】			
4-6心理	心理学部履修要項(年次別履修計画)			
4-7心理	心理学部履修要項(カリキュラム概要)			
4-8心理	心理学部履修要項(カリキュラムツリー)			
4-9心理	シラバスチェックリスト			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置(授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等)を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)は適切ですか。 また、授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 ＜学士課程＞ ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 ＜修士課程、博士課程＞ ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 単位の実質化を図るための措置として、講義のシラバスに必ず「授業時間外学修時間」を明示し(4-10)、授業時間外に必要な学習の促進を図っている。また、キャップ制を設け、一年で履修できる単位数の上限(44単位)の目安(4-11)を設けている。				
(2)シラバスには授業のテーマ、概要、到達目標、授業計画、評価方法・基準(評価割合)、テキスト、参考書・参考資料が含まれている。 心理学部の教員はシラバスに可能なかぎり忠実に各学期の授業を行っている。授業内容の適切性について、シラバスのチェックリスト(4-9)を用い、授業の内容の適切性を確認している。また、授業アンケートでシラバスとの整合性に関する項目を設け、点検している。 (3) 学生の主体的参加を促すために、講義形式だけでなく、演習など多様な授業形態を取り入れている。演習では、学生を少人数のクラスに分け、演習方式で各種心理学の実験やテストなどを実際に体験させながら、解説している。				
(4) 心身科学部心理学部の基礎実験演習や一般実験演習などの科目では、学生を10～20人の小グループに分け、グループ活動を導入しながら、心理学の各分野の基礎知識や実験法などを教えてきた。心理学部心理学部では心理学実験となるが、小グループで実施する利点は維持しつつ、2コマ連続開講とすることで、より時間をかけたきめ細かい教育が可能になる。また、例年、新入生を対象とした履修相談会を開催しており、学生が適切に履修できるよう指導している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-10心理	心理学部履修要項(シラバス(講義概要))			
4-11心理	心理学部履修要項(履修制限単位数)			
4-9心理	シラバスチェックリスト			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)	単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。 また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2)	成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3)	卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(5)	〈修士課程・博士課程〉 学位論文審査基準を明示し、公表していますか。	
		(6)	学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するためにどのような措置を講じていますか。 学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(7)	適切に学位授与を行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 心理学科では、各学生の成績の評価については、シラバスに記載の通り、学期末に実施する定期試験あるいはレポート試験などにより厳正に評価を行っている。まず、試験の実施方法や内容についての全般的な事柄については、心理学部履修要項(4-12)(p.15-16)に、追試験に関しては、同 p.17に、また成績の評価システム(GPA)については同p.19-20に、それぞれ明記している。 編入生の場合、単位修得していた科目のタイトル、内容(シラバスと照合)を確認した上、既修得単位の認定を行っている。 (2) 単位認定は厳格かつ適切に行っている。例えば、卒業論文については指導教員以外の教員も評価し、担当する教員全員で評価を検討することによって客観性が担保されるようにしている。学生側に疑問のあるときは教務課を通じて申し出ることが可能であり(4-13)、それに対しては誠意をもって対応している。もちろん個人的に問い合わせがあった際も、誠実に対応している。 (3) 卒業要件については、本学学則(4-14)第8条に定められた所定の単位を修得した者に対して、同学則37条により学士(心理学)の学位が授与される。また、卒業判定は、例年3月に学則に基づき学部教授会で審議し、承認している。卒業論文の形式などについては心理学部履修要項(4-15)(p.48)に明記している。 (6) 学位審査の客観性及び厳格性を確保するために、複数名の教員による審査を行っている。最終的には学科会議、学部教授会の審議を経たうえで、代表教授会で承認となる。学位授与に係る責任体制及び手続は愛知学院大学学位記授与に関する規程に明記されており、同規程は履修要項(4-16)に掲載されている。 (7) 卒業要件を満たした学生、具体的に心理学科では、次の2点を満たした学生、その1、通算して4年以上在学した者(休学期間は除く)。その2、所定の128単位(卒業に必要な単位数)を修得した者に対して、学位授与を行っている(4-17)。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-12心理	心理学部履修要項(試験)			
4-13心理	心理学部履修要項(成績)			
4-14心理	愛知学院大学学則。ウェブサイト【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/2022/gakusoku.pdf 】			
4-15心理	心理学部履修要項(卒業論文)			
4-16心理	心理学部履修要項(愛知学院大学学位記授与に関する規程)			
4-17心理	心理学部履修要項(進級・卒業)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)カリキュラムの内容は、専門基礎科目は必修として20単位、専門総合科目は12単位、専門基幹科目と専門展開科目を合わせて44単位以上、なお、専門展開科目は自らが選択した分野の科目を20単位以上取得することとし、専門教育科目の中から76単位以上を修得することを心理学部の卒業要件としている(4-7)。 また、ディプロマ・ポリシーに示す学習成果を測定するために、心理学部のアセスメント・プランを定め、指標を設定している。				
(2)卒業時に、卒業生全員に対する学科独自のアンケートを行い、学習成果および学生生活の充実度を測定している。それらを経年的に分析することは、指導方針を段階的に見直すことに貢献している(4-18)。アセスメント・プランに基づいた学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に示した学習成果を把握するために、ルーブリックによる評価表を作成し、導入に向けて準備中である(4-19)。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-7心理	心理学部履修要項(カリキュラム概要)			
4-18心理	卒業時アンケート			
4-19心理	卒業研究におけるルーブリック評価			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)「教育目標に基づく学位授与方針」は、40年以上前に文学部心理学科を開設した時からの方針であり、現在、多文化・共生分野、情報・ビジネス分野、心理学実践分野を設定しているが(4-6)、学科開設以来の方針である「低学年ではできるだけ幅広い心理学の領域を広く浅く学び、2年次、3年次と進むにつれて各自の興味を持った領域や題材に絞っていく」方針は、基本的に踏襲してきている。この方針により、本学心理学科の学生は、最初から本人の興味だけに依存した偏った心理学の知識の取得をすることなく、幅広い心理学の教養的知識の上に、徐々に専門的、かつ自らの興味や関心に沿った知識や技能を身に付けてきたといえる(4-7)。また、教室会議でカリキュラムツリーを用いて、カリキュラムの問題点がないか、全教員で検討している(4-20)。				
(2)多様な学生が入学するようになったことを受け、心身科学部心理学科では基礎実験演習、一般実験演習は、少人数制のグループで受講し、レポート作成や添削においてきめ細かい指導を行ってきた。これらの科目は心理学部心理学科では心理学実験となるが、2コマ連続の開講とし、時間をかけたよりきめ細かい指導が可能となる。学力の低い学生においても丁寧に指導することによって、基本的なレポート作成のスキルの獲得および、心理学の幅広い入門的知識に興味や関心をもたせるようにした。より広く深い心理学的視野を持ち、社会に貢献できる人材の育成を目指していく。さらに、例年、学部内および学科内のFD研究会を開催し(4-21)、近年の学生の傾向を把握し、今後の取り組みについても検討を重ね、次年度の指導に生かしている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-7心理	心理学部履修要項(カリキュラム概要)			
4-6心理	心理学部履修要項(年次別履修計画)			
4-20心理	2022年度第21回教室会議議事録			
4-21心理	令和4年度心理学部FD研究会活動報告			

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準4」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2022年度(評価対象期間: 2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 心理学部では、アドミッション・ポリシーを設定し、大学のHP(5-1)、入試ガイド(5-2)に公表している。また、カリキュラム・ポリシーを設定し、大学のHP(5-1)、履修要項(5-3)に公表している。心理学をいかしたアプローチができる人材を養成する本学部として適切な内容と考えている。				
(2) 心理学部のアドミッション・ポリシーとして、「愛知学院大学心理学部では、自分や他者のこころの仕組みに興味を持ち、深く理解しようとする意欲のある人を求めます」とした上で、学生に求める入学前の学習歴、能力を示している(5-1)。 入学希望者に求める水準等の判定方法では、高大接続型入試や推薦入試では、複数名の教員が論文審査や面接を通して判定している。一般選抜では学力試験を行い判定している(5-2、5-4)。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
5-1心理	大学HP 教育理念・各種方針 アドミッション・ポリシー。ウェブサイト【 https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/ 】			
5-2心理	大学のHP 入試ガイド2023 ウェブサイト【 https://www.d-pam.com/agu/229054_D/index.html#target/page_no=59 】			
5-3心理	心理学部履修要項(教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー))			
5-4心理	愛知学院大学入試情報サイト。ウェブサイト【 https://navi.agu.ac.jp/examination/ 】			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(3)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(4)	公正な入学選抜を実施していますか。	A
		(5)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学選抜を実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 心理学部では、学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学選抜制度を設定している。高大接続型入試では、出願前の受験生に模擬授業を受講させ、模擬授業の内容に関するレポートを出願書類として提出させるというやり方を導入した。この方法を導入することで、高校生はより具体的に入学後の授業をイメージすることで、心理学部もモチベーションが高い学生を選抜できるため、双方において利点がある。推薦入試では、心理学部の教育方針の理解を確認して選抜をしている。一般選抜では心理学部の学びに相応しい学力を有しているかを試験によって評価し入学選抜を行っている(5-4)。				
(3) 本学では愛知学院大学入学試験委員会規程に基づき、代表教授会の下に入学試験委員会が設置されている。心理学部も入学試験委員を選出し、大学の入学試験委員会に出席し、大学および学部の学生受け入れ方針に従い、入学選抜を実施している。				
(4) 心理学部では、学生募集および入学選抜が、学生の受け入れ方針に基づき公正かつ適切に実施されているかについて、教授会、教室会議、入学試験委員会等を通して定期的に検証している。				
(5) 心理学は人の行動とところに関心を持つ学生で一定の基礎学力があれば、自分の得意な部分をいかして学習を進めていくことができる。実際そのような立場から様々なタイプの学生を受け入れている。社会人の経験のある学生にも門戸を開いている。留学生に対して留学生選抜試験を行っている(5-4)。障がいのある学生の受け入れについては、心理学部の授業の多くが開講される14号館は、車椅子で受講できる教室を整備している。バリアフリー対応のトイレも各階にあり、エレベーターも完備するなど受け入れの支障を最小限にするよう努めている。その他の障がいについても個別に対応し、可能な限り受け入れることができるよう努めている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
5-4心理	愛知学院大学入試情報サイト。ウェブサイト【 https://navi.agu.ac.jp/examination/ 】			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程、専門職学位課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 心理学部の学生のレベルを一定に保つためにも、定員数を超過して受け入れることがないようにしている。また高大接続型入試、推薦入学の入学者数も適正な数にして、質の確保に努めている。 <学士課程>(5-5) ・入学定員160名に対して、2022年5月1日時点で1年生180名で112.5%である。2年生-4年生(心身科学部心理学科)は収容定員425名に対して446名で104.9%である。 ・編入学定員は心身科学部心理学科2年生1名、3年生1名であるが、今年度2年生編入は0名で0%、3年生編入は0名で0%である。 ・入学定員に近づけるように大学の入学試験委員会が定期的に検討を行っている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
5-5心理	大学HP 教育情報の公開 入学者数など。ウェブサイト【 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/tein2022.pdf 】			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 心理学部では、学生募集および入学者選抜(5-6)が、学生の受け入れ方針に基づき公正かつ適切に実施されているかについて、教授会、教室会議、入学試験委員会等を通して定期的に検証している。				
(2) 定期的な検証を継続的行った結果、入学者数が定員数を大幅に上回ることが少なくなり、以前よりも目の行き届いたきめ細やかな教育を行うことが可能になってきている。ただし、2022年度は定員を20名上回る入学者数であったので、来年度以降で調整する必要がある。				
〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
5-6心理	愛知学院大学入試情報サイト ウェブサイト【 https://navi.agu.ac.jp/examination/information/result.html 】			

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準5」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(2)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を適切に明示していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (2)心理学部では、2022年度に、愛知学院大学の教員組織の編制方針を前提とした学部独自の教員組織の編制方針を策定した(6-1)。心理学部では、心理学のほぼ全領域にわたり、認知・行動、社会・産業、発達・教育、人格・臨床、統計の5分野からの専門教員を配置すること、とくに公認心理師等の資格の取得に関する教員を必要数配置し、専門的な技能をもつ高度職業人を養成することを目指しており、このことは、大学の教育理念である、「仏教精神特に禅的教養を基とし、行学一体の人格育成に努め、報恩感謝の生活ができる社会人を養成する」ことに合致するものであり(6-2)、内容も適切である。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
6-1心理	心理学部 教員組織の編制方針			
6-2心理	大学のHP。「大学案内」→「教育理念・各種方針」ウェブサイト【 http://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf 】			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 心理学部は専任教員16名、客員教員1名で、設置基準上必要な専任教員数を満たしている(6-3)。

(2) 心理学部では広範な知識を学生に提供するため、心理学のほぼ全領域にわたり、認知・行動、社会・産業、発達・教育、人格・臨床、統計の5分野の専門教員を配置するようにしている。

(3) 心理学の広範な知識を学生に提供するため、心理学のほぼ全領域にわたり、認知・行動、社会・産業、発達・教育、人格・臨床、統計の5分野からの専門教員を配置する。心理学部の開講科目(教授、准教授、講師の教員数)の現状は、心理学のほぼ全領域に広がり、認知心理学(2名)、行動心理学(1名)、発達心理学(1名)、社会心理学(2名)、産業心理学(1名)、計量心理学(2名)、人格心理学(2名)、臨床心理学(6名)となっている。さらに嘱託教員として実験助手1名が配置されている。しかし教育分野は欠員となっており、当該分野の教員を充足する必要がある。

・教員の専門性を重視することを優先するが、男女共同参画の視点を考慮し、女性教員の比率を30%程度以上維持するよう努めている。心理学部では、男性教員が70.6%、女性教員が29.4%となっており、ほぼ適正な男女比を維持している。また、中国出身の教員が1名在職している。

・心理学部では公認心理師を養成するコースがあり、公認心理師の資格を持っている教員が複数名いる。

・教員の授業担当負担を把握するため、各教員が担当している授業の数を集計し、偏りが生じないように教員間で調整を行っている。

・学部の沿革、AP、DP、CPを踏まえて学部の特徴を適切に継承すること、また心理学の変遷を学生に伝えるため、若手教員からベテラン教員までバランスよく配置している。本年度末にて40歳未満11.8%、40歳以上～50歳未満35.3%、50歳以上52.9%となっている。昨年度まで30代の教員はいなかったが、今年度2名となり、年齢の分布が改善した。

(4) 他分野を理解することにより、心理学に対しても多角的視点を身につけることを目指す。教養部による教養教育を通じて、個人の社会とのかかわり、規範意識、倫理性、感性などを学び、バランスのとれた知識や知恵を身につけることができる。すなわち教養教育科目は、他分野との比較から心理学の専門性への深い理解を支援するものとして位置づけている。卒業要件として外国語を10単位、教養基幹科目(人文系、社会系、自然系、主題系)を20～36単位、健康総合科目を2単位を履修することが定められており、幅広い知識を体系的に学修できる環境を整えている(6-4)。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

6-3心理 心理学部のHPウェブサイト【<https://psychology.agu.ac.jp/teacher/index.html>】

6-4心理 「心理学部履修要項」(カリキュラム概要)

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備している(6-5)。				
(2) 規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施している。近年採用された教員、昇任した教員は、すべて資料6-5の「愛知学院大学心理学部心理学科採用・昇進人事審査規程」の条件を満たしている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
6-5心理	愛知学院大学心理学部心理学科採用・昇進人事審査規程			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 心理学部では、ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を定期的に行っている。2022年度は8月3日(水)14時より、9号館5階のデータサイエンス室にて「2022年度心理学部FD研究会」を開催し、新たに着任された4名の先生方の研究内容、授業における工夫等についてご発表いただき、討論を行った(6-6)。また、FD活動の一環として毎年授業アンケートを実施しており、その結果を教育に反映させている。				
(2) 各学期において実施される「授業アンケート」の結果を全員にフィードバックし、授業内容の改善に役立てている。また、教員は「教員の諸活動における自己点検・自己評価」として、「教育活動」「研究活動」「社会貢献」「大学運営」について年度ごとに目標・計画及び自己評価を教員業績システムに入力している(6-7)。その他、FD活動として教員相互の授業参観や全学FD集会などが行われている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
6-6心理	令和4年度心理学部FD研究会活動報告			
6-7心理	教員情報ウェブサイト【 https://aris.agu.ac.jp/aiguhp/KgApp 】			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 心理学部においては、④に記載したとおり、FD活動において教員組織の適切性について定期的に点検・評価が行われている(6-6)。				
(2) 心理学科を開設した1970 年 4 月以降、社会のニーズも念頭において人員を拡充してきた。心理学において重要なのは、その視点の多様性であるが、本学の心理学科は心理学の諸領域を網羅しているし、とくに臨床領域のスタッフは充実してきている。さらに2022年度の学部化に伴って、隣接領域のスタッフも充実させた。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
6-6心理	令和4年度心理学部FD研究会活動報告			

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準6」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。 地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)これまで国際交流事業としてJICA草の根技術協力事業で、心理リハビリテーションを通じた発達障害児等支援者指導者養成事業をベトナムダナン師範大学と協定し、育成活動を実施してきた(9-1)。				
(2)2022年度は、日進市の大学連携講座で「こころ・からだ・かかわり」と題して心理学部の3名の教員が3回に渡って講師を担当した(9-2)。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
9-1心理	JICA 独立行政法人 国際協力機構 草の根協力支援型 2017年度第1回 採択内定案件 https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/shien/ku57pq000019g3fb-att/vie_14_s.pdf			
9-2心理	日進市生涯学習誌PLAN2022年冬号			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)愛知学院大学心理学部に所属する専任教員の教育活動、研究活動、社会活動等については、教員業績に関するデータベースシステムに登録する(年1回以上の更新)ことで、教員情報のウェブ上での公開が行われている(9-3)。また、ベトナムのダナン師範大学で毎年複数回にわたって指導が行われているが、その際に継続して参加できるようにシステムを作っている。よって、定期的に参加者のスキルアップが確認できるようになっている。				
(2)教員情報に基づき、心理学部教授会、心理学部自己点検・自己評価委員会を中心に学部全体の社会連携・社会貢献の改善・向上への取り組みを行っている(9-4、9-5)。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
9-3心理	教員情報 ウェブサイト【 https://aris.agu.ac.jp/aiguhp/KgApp 】			
9-4心理	2022年度心理学部教授会議事録			
9-5心理	2022年度心理学部自己点検・自己評価委員会議事録			

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準9」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。
A